

千葉市感染症発生動向調査情報

2012年 第32週 (8/6-8/12) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		32週	31週	30週	29週
小児科		14	17	18	18
眼科		2	3	5	5
インフルエンザ*		17	23	26	25
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	8/6-8/12	7/30-8/5	7/23-7/29	7/16-7/22	7/30-8/5
			32週	31週	30週	29週	31週
小児科	RSウイルス感染症		0	2	7	3	23
	咽頭結膜熱		0	6	3	15	43
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11	22	33	17	165
	感染性胃腸炎	○	51	49	51	67	367
	水痘		7	4	4	11	93
	手足口病		5	10	5	7	78
	伝染性紅斑		2	2	1	2	16
	突発性発しん		6	11	18	17	81
	百日咳		1	1	0	0	4
	ヘルパンギーナ	↓	53	76	79	105	598
	流行性耳下腺炎		2	2	0	4	53
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザ*を除く)		2	1	1	0	4
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	1
	流行性角結膜炎		0	1	2	2	20
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	9	3	1	12
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	2	1	2	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	結核	女性	90歳代	病原体の検出等
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	腸管出血性大腸菌感染症	女性	50歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	女性	10歳代	QFT等	風しん	男性	40歳代	臨床決定
結核	女性	40歳代	病理学的特徴的所見	-	-	-	-

・結核5件(201)、腸管出血性大腸菌感染症1件(6)、風しん1件(4)の報告があった。

()内は2012年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第32週のコメント

<感染性胃腸炎> 前週より増加し3.64となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<ヘルパンギーナ> 前週より減少し3.79となった。過去10年の同時期と比べると多め。

トピック

< 感染性胃腸炎 >

2012年の全国レベルは、第15週以来過去5年間の平均+SD付近かそれを上回る高い水準で推移しており、第31週現在はほぼ例年並みとなっています。都道府県別では、大分県、島根県、宮崎県の順で発生が多く見られます。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市は第14週以来高い水準で推移しており、第32週現在は前週から増加し3.64となり、過去10年間の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区で最も多く、同区の1歳及び3歳で最も多くなっています。また、反対に若葉区では年頭から発生報告が少なく、第32週は同区での発生報告はありませんでした。

感染性胃腸炎の原因はサルモネラなどの細菌によるもの、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるもの、クリプトスポリジウムや赤痢アメーバなどの原虫によるものがありますが、冬期の感染性胃腸炎の多くはウイルスによるものです。ウイルスによる流行期は12月頃から3月にかけてであり、例年では年末にノロウイルスによる大きなピークを形成し、早春にはロタウイルスによる流行がみられます。

感染者の糞便や吐物には大量のウイルスが排泄され、またウイルスが乾燥して空中に漂い経口感染することもあるので、汚物や便は乾燥しないうちに処理しましょう。汚物が付着した床等は、手袋を使用し、次亜塩素酸ナトリウム液（塩素濃度約0.1%）で浸すように拭き取り、使用したペーパータオル等はビニール袋などに密封して廃棄しましょう。

